

論文内容の要約

論文名	E-cadherin Expression and Cell Proliferation in the Primary Tumor and Metastatic Lymph Nodes of Papillary Thyroid Microcarcinoma 甲状腺微小乳頭癌の原発巣およびリンパ節転移巣における E-cadherin の発現および細胞増殖
氏名	中村 雅憲
<p>【目的】甲状腺乳頭癌、とりわけ 1cm 以下の長径を示す微小乳頭癌(PTMC)は、発育が緩徐で予後良好であるが、一部に予後不良な例があり、リンパ節転移は臨床的予後不良因子の一つと考えられている。癌の浸潤や転移過程の背景には、E-cadherin(E-cad)発現の低下や細胞増殖能の関与が想定されており、本研究では、PTMC での E-cad 発現と細胞増殖能の評価から、乳頭癌初期の段階での悪性形質の背景を明らかにすることを目的とした。</p> <p>【対象】'00～'10 年に手術を行った PTMC 93 例の原発巣とリンパ節転移巣(LNM)58 病巣。</p> <p>【方法】E-cad および Ki67 の免疫組織染色を行い、臨床病理学的所見、リンパ節転移との関連性を検討した。</p> <p>【結果】原発巣 73 例(79%)で E-cad 発現陽性。長径 5mm 以下の例では全例発現陽性であったが、他の臨床病理学的因子と E-cad 発現に関連はなかった。17 例(25%)の腫瘍先進部では E-cad 発現が減弱しており、腫瘍中心部と比較し先進部の発現は有意に低率であった。LNM では 49 病巣(86%)と高率に E-cad 陽性であった。LNM で E-cad 陰性の 5/8 例で先進部での発現減弱を認めており、先進部と LNM の E-cad 発現との間に有意な相関を認めた。一方で、原発巣 E-cad 陰性の 10/11 例では LNM で E-cad 再発現を認めた。細胞増殖能を示す Ki-67 の発現は全例で低率であり、臨床病理学的因子や E-cad 発現との間に明らかな関連は認めなかった。</p> <p>【結論】PTMC やその LNM における癌細胞は、多くの症例では indolent な特性を持っていることが示された。一方で浸潤・転移への E-cad 発現減弱の関与や、転移巣形成での E-cad 再発現の関与が示唆される結果であり、初期の癌である PTMC においても癌細胞がすでに悪性化に関わる潜在能力を有していることを示す結果と考えられた。</p>	